

こども教育宝仙大学 研究室だより 第12回

「保育の質の向上に関して大切にすべき視点」

都市部における深刻な待機児童問題対策としての「保育の量的拡大」（保育受け入れ可能な子どもの数の増加）が進められていますが、同時に、保育所における「保育の質」を保証し維持・向上していくという視点も考えていく姿勢が重要です。そのためには、「保育所ってどんなところ？」から考える必要があります。

- (1) 日中の就労等により子どもを家庭で保育できない保護者のために、保護者が安心して安全に子どもを預けることができるような場。
- (2) 信頼関係で結ばれた保育士とともに、子どもたちが安心して安全に日々の生活をする場。
- (3) 人間の人格形成にとって極めて重要な乳幼児期において、物事に主体的に関わり、自ら考え工夫し、他の人と協調して行動できる基本的な姿勢を形成する場。

上記のような視点を大切に、保育士が絶えずその専門性を保ち続けることができるよう、保育士の研修制度を充実し、保育の専門家として「保育の質」を高めていくことが大切になります。

保育者養成校教員としては、写真1に示すように、保育所の研修の場に参加して協働して保育を高めていくことが大切であると考えています。

実際の保育の写真（例えば写真2参照）を準備すると、研修での保育者同士の議論がしやすくなります



写真1 保育園における研修の様子



写真2 研修に使用した写真(例)

(写真提供：社会福祉法人あゆみの会)

(富山大土 研究分野：保育学・保育者のキャリア形成・発達行動学)